

戦争から考える「子どもの権利条約」

対 象

中学生から高校生

ねらい

- ・戦争に関連する人権侵害や偏見・差別を学ぶことを通して、「子どもの権利条約」について理解を深め、人権の重要性を認識する。
- ・人権侵害を身近な問題ととらえ、自他の人権を守ろうとする意識を高める。

留意点

- ・学級の実態により、配慮が必要な場合はグループの編成を工夫する。
- ・(公財)日本ユニセフ協会ホームページ (<https://www.unicef.or.jp/>)より、「子どもの権利条約カードブック」を参照する。



日本ユニセフ協会・「子ども
の権利条約カードブック」

特別支援学校での取り組み方法

- ・「子どもの権利条約カードブック」から使用するカードをあらかじめ選抜した上で実施する。
- ・3つの国の状況を分かりやすい言葉で伝える。

学習指導要領との関連 (例)

- ・中学校 道徳A、B 社会「公民的分野」C
- ・高等学校 公共A、B 倫理A、B 特別活動「ホームルーム活動」(2)ア (3)ウ

進め方

流れ	展開と内容
導入 (5分)	戦争が起きると人々の生活はどのように変化してしまうのでしょうか。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none">・「子どもの権利条約」について学ぼう。【ワーク1】・A~C国が、今、どういう状況にあるのか、読んでみましょう。・「子どもの権利条約」のそれぞれの条文を読みましょう。【ワーク2】・A~C国ではどのような人権の侵害や生活上の制約があったと思いますか。【ワーク3】・A~C国は仮想の国ですが、戦争をしていた国・している国はたくさんあります。戦争に関連して実際にどのような人権侵害・生活上の制約が発生すると思いますか。グループで話し合ってみましょう。(適宜インターネット等で調べることも可能)
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none">【ワーク4】・気づいたことや考えたことを書きましょう。また、これからの自分の生活と結びつけて考えたことも書いてみましょう。

【短縮して実施するためのアイデア】ワーク1、ワーク2を中心に行う。

ワークシート「戦争から考える『子どもの権利条約』」

「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。18歳未満の児童(子ども)を権利をもつ主体と位置づけ、大人と同様に一人の人間としての人権を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めています。前文と本文54条からなり、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定しています。1989年の第44回国連総会において採択、1990年に発効。日本は1994年に批准しました。

《子どもの権利条約 4つの原則》

○命を守られ成長できること

○意見を表明し参加できること

○子どもにとって最もよいこと

○差別のないこと



1 A国とB国が戦争をしています。C国はA国・B国の近隣国です。

A国では…

爆撃で病院が壊されてしまい、国民はけがをしても病気になっても治療を受けられません。「屋外は危険だから」という理由で、学校に行くことも外で遊ぶことも禁止になったそうです。

B国では…

大人たちが戦争に行ってしまったため、武器工場では、子どもたちが朝から晩まで働いています。近々、子どもも兵士として戦争に行かないといけなくなるのか心配しているようです。

C国では…

「戦争を始めたのはB国だから、B国は悪い国だ。C国からB国の人を追い出せ。」と言っている人たちがいます。

親から「あの子の家族はB国だから仲良くしてはいけない。」と言われた子もいるそうです。

2 それぞれの国でどのような人権の侵害や生活上の制約があると思いますか。カードブックを見ながら書いてみましょう。

3 実際の戦争では、ほかにどのような人権侵害があると思いますか。書いてみましょう。

4 気づいたことや考えたことを書きましょう。また、これからの自分の生活と結びつけて考えたことも書いてみましょう。